

職能委員会報告

保健師職能委員会

実績	中堅期保健師コンサルテーションプログラム（3日間）10月21日、11月25日、令和6年1月27日 受講者6名 産業保健師育成研修 11月11日 受講者4名 地域包括支援センター保健師・看護師交流会 令和6年1月13日 受講者73名 東京産業保健師自主勉強会 6月10日 受講者18名 12月9日 受講者17名
成果	参加者が少ない研修もあるが、参加者の満足度は高く、資質の向上も図られ、研修目標は達成できている。産業保健師勉強会は、自主勉強会も含め20名前後の参加で、基本的な知識や今後の新たな課題などを学ぶ機会となり満足度も高い。地域包括支援センター保健師・看護師交流会については、実施後のアンケートで、「他地域との交流」、「同職種との交流」ができ98.3%が交流会に満足できたと回答し、ほぼ全員が継続を希望していた。 今後は、地域包括支援センター保健師・看護師交流会については、近い地域包括支援センター間での交流会を開催するなどして、地区支部のネットワーク強化やスキルアップを図る。また、各地区支部からの情報や課題を全体交流会で共有し、必要時には関係各所へ発信するなどして、更なるネットワークの拡大に繋げていく。

助産師職能委員会

実績	助産師交流会 これからの産後ケアを考える 令和6年1月27日 受講者33名 コネミドTOKYO 10回開催 累計参加者45名 宿泊型産後ケアの実態と課題についてアンケート調査 回答数96 有効回答率34.7%
成果	オンラインではあるが毎月開催された交流会の参加人数は10～15名と一定数保たれており、毎月開催することによって東京都看護協会や助産師職能委員会の存在や活動を周知することができたのではないかと。身近な存在になったことにより、助産師同士の交流やネットワーク作りに役立ったと評価する。対面式での交流会では産後ケアの最新情報や動向の講義後ディスカッションを実施した。参加者のアンケート結果（回答者数29名(87.9%)）は、満足したが27名（93.1%）、やや満足したが2名（6.9%）と交流会への満足度が高かった。 また、実態調査では調査対象者の協力を得て、回収率が30%以上となり信頼性も確保できたことにより、今後、東京都の実態や課題を明確にすることが可能であると考えている。以上のことから令和5年度の目標は達成したと評価する。

看護師職能委員会領域Ⅰ

実績	病院看護管理実態調査 回答数192 有効回答率30.5%
成果	三職能合同交流集会・研修会は、勤務環境改善の取り組みとして若手職員の離職防止をはじめ指導的立場にある看護職の負担軽減を図ることやプラチナナースの活用を考慮し、「ジェネレーションギャップ対処法へのヒント」をテーマに交流会を実施した。看護職を継続するための配慮およびプラチナナースの勤務環境の優先条件に関するアンケートにおいて、職場内コミュニケーションや人間関係、困ったときの相談先が明確、やりがいを求めていることから、本テーマは各施設の勤務環境の改善に活用できる内容であり目標は達成したと評価する。 また、看護職が専門性を発揮できる働き方を推進し、看護サービス向上するためには医師や他職種とタスク・シフト／シェアをする必要があると考え、看護研究学会インフォメーション・エクスチェンジでは、自施設のタスク・シフト／シェアの現状と課題や他職種との連携をすすめるための工夫について意見交換できるように企画した。参加者の関心は高く、組織全体への周知・連携を図るための具体的な工夫について情報共有する機会となった。

看護師職能委員会領域Ⅱ

実績	在宅・高齢者ケア施設等の看護管理者研修会・交流会 知ろう！カスタマーハラスメント 受講者58名 未来のケアを拓く～令和6年度制度改定からLIFEを施設、在宅で看護職がどう活かすか 令和6年2月3日 受講者33名
成果	今年度は、さまざまな場で働く看護師が共通するテーマをもとに研修を行い学び合えることを目指した。LIFEをテーマとした研修は3回目となる。今年度の参加者の半数はLIFEを利用していた。令和6年度制度改定、LIFEの活用をテーマにした研修は、制度改定をテーマとした。その結果、LIFEを実施していない訪問看護の参加もあり、訪問看護にも実践の可視化の必要性やフィードバックデータの活用などLIFEを地域で活用する必要性を伝える機会を持てた。他施設の取組みを共有できたことや施設、在宅の看護職との意見交換により、制度改定やLIFEについての理解が深まり、様々な場で働く看護職での交流や医療と介護の連携を考える機会につながった。 もう一つは、カスタマーハラスメントをテーマとした研修と看護学会のインフォメーション・エクスチェンジでのカスタマーハラスメントをテーマにディスカッションを実施した。看護師としての共通する問題であり、ハラスメントの基本的な理解と取り組みを知ってもらう機会となった。

委員会報告

教育委員会

実績	91研修の企画 医療・看護の動向及び診療報酬関連等の情報を収集し、過去3年間の研修応募数、応募率等を参考にしながら検討、研修を計画した。 研修テーマのねらい、定員、時期、講師について10項目を評価し、研修受講後のアンケート結果も踏まえ委員会で協議したうえで次年度継続有無を決定した。
成果	令和5年度に計画した研修は全て実施することができた。各実務実践研修の評価について研修記録をもとに協議を実施し、次年度の継続及び講師継続の可否について決定した。また、4つの新規研修企画は研修運営に参画した。 次年度の課題として、応募率の高い研修は期間を空けて複数回企画し実施することにした。また、全体の研修数が増加しているため、新規研修も含めて、応募率などを参考に評価を速やかにし、次年度の研修計画に反映できるようにする。

学術推進委員会

実績	テーマ：新たな時代の看護の創出～看護の価値を見直そう～ 開始期日：令和6年1月20日 9：00～16：00 参加者：301名 研究発表：口演発表40題 インフォメーション・エクスチェンジ7題 展示7社 ランチョンセミナー1社 内容：口演発表、示説発表、看護用具創意工夫、特別講演
成果	学会参加者300名以上を目標とし、参加者の目標は達成できた。座長に関しては、委員会メンバーや協会内の職員に依頼し、費用は抑えられたと考えられる。 口演内容は、研究発表より実践報告が多かったが、実践をまとめ発表することは看護を振り返る機会となり、看護の質の向上となると考える。 特別講演、シンポジウムは活発な意見交換が行われ、好評であったと評価する。 インフォメーション・エクスチェンジは、今年度初めて行われた。当協会の委員会より7題発表あり、参加者も多くみられ継続していきたいと考える。

医療安全委員会

実績	(1) 医療安全管理者養成研修 7日間 第1回 6月19日～7月5日 修了者84名 第2回 7月21日～8月5日 修了者76名 第3回 令和6年2月7日～2月24日 修了者61名 (2) 医療安全管理者養成研修修了者フォローアップ研修 第1回 令和6年1月18日 参加者68名 第2回 令和6年2月 3日 参加者61名 (3) リスクマネジャー交流会 集まろう！語ろう！医療安全 リスクマネジャーは「孤独」というけれど…… 10月7日 受講者数42名 (4) RCA手法を用いた事故事例分析研修 12月16日 受講者40名
成果	医療安全管理者養成研修は計画通り3回実施できた。第1回においては講師の急病のため、第2回の講義の際に、対面、Zoomによる受講およびオンデマンドで動画視聴による受講という複数の手段を用いて補講を行った。受講者の協力もありスムーズに対応ができた。 医療安全は医療および看護の質の向上のために必要な知識であるため、医療安全管理者養成研修を多くの看護師がキャリアパスの一つとして受講できる体制が望まれる。また継続的学習のため、幅広いキャリアの看護師を対象とした医療安全教育の支援も必要である。

社会経済福祉委員会

実績	看護補助者活用推進のための看護管理者研修 5回開催 受講者計422名 看護補助者のための研修 6月18日、8月6日 2回開催 受講者計132名 卒煙サポーター研修 7月2日 受講者20名
成果	看護補助者活用推進のための看護管理者研修は「看護補助体制充実加算」算定要件の研修である。看護補助者の業務範囲や教育および就労環境について理解し、施設における看護補助者体制整備を図るために必要な知識を提供することができた。受講者も組織的に取り組む必要性を理あ解し、グループワークで活用推進について具体策を立案し共有することができた。 看護補助者のための研修では、看護チームの一員として看護補助業務を行うために必要な個人情報保護、守秘義務や技術について講義があり受講者の満足度も高かった。また、看護補助者の参集研修は開催数が少ないため、本研修が良い情報交換の場となっている。 卒煙サポーター研修は日本禁煙学会禁煙サポーター認定のための研修となっており、タバコの害を理解するとともに、禁煙外来等で活用できる知識を習得可能な研修となっており、満足度は高い。

看護制度委員会

実績	研修会	第1回研修会	9月6日	裁判例から学ぶ看護記録	受講者36名
		第2回研修会	12月15日	看護現場における医療事故防止	受講者16名
	交流会	第1回研修会	9月6日	参加者5名	
成果		第2回研修会	12月15日	参加者14名	
	令和5年度は計画に沿って事業実施するとともに、新規にインフォメーション・エクスチェンジで活動を報告することができた。令和6年度は、准看護師のニーズを把握するとともに、研修会・進学説明会を開催することにより、准看護師のモチベーションアップや進学を考える機会を充実することとする。				

感染対策委員会

実績	中小病院で知ってほしい感染症・感染対策	9月19日	受講者39名
	東京都受託事業令和5年度東京都感染対策リーダー養成研修	修了者137施設	148名
成果	委員会活動は、年間計画通りに、研修企画・実施・評価、次年度の検討等を行うことができた。		
	令和4年度に作成した感染対策リーダー養成研修の演習計画を、オンラインから対面への演習方法へ変更するとともに受講者アンケート結果等をふまえて修正し、内容をブラッシュアップし実施できた。また、感染対策リーダー養成研修の演習における個人防護具の着脱動画コンテンツを新たに作成した。感染管理認定看護師である委員の脚本・モデルにより制作された動画は、構成・着脱技術等クオリティの高いものとなった。感染予防対策の啓発活動として、教材制作の取り組み等の新たな可能性を見出すことができた。		
	委員会企画研修はコロナ禍で休止していたが3年ぶりに集合開催した。令和5年度は講義のみの研修企画としたがアンケート結果には、実技やディスカッションの演習を希望する意見もあり、今後の研修内容や方法は、感染症の流行等トピックに合わせて企画していく。		

災害対策委員会

実績	災害支援ナースの登録推進	申込：528名130施設
	(1) 災害支援ナース養成研修（厚生労働省プログラム）	災害支援ナース養成研修（演習）受講決定計142名
		第1回：10月28日、11月5日 第2回：令和6年2月10日、2月17日
	(2) 災害支援活動に必要な知識・技術教育	災害看護に関する研修 テーマ：首都直下地震が発生したらあなたの病院では何が起こる？～机上シミュレーションからの考察と学び～ 12月8日 受講者94名
		管理者向け災害対策研修 テーマ：地震は必ず起きる！看護業務に必須なBCP～目の前の患者と職員を守るための対策～ 9月30日 受講者73名
成果	(3) 災害発生時の支援活動	都道府県看護協会災害看護担当者会議 12月14日
	(4) 災害支援ナース派遣	能登半島地震（令和6年1月1日発生）への災害支援ナース派遣 期間：令和6年1月12日～2月23日 派遣者数13班48名
	(5) 災害支援派遣後フォローアップ交流会	令和6年3月15日 出席者39名
	災害支援ナース養成研修は受講者141名が修了した。集合演習は初めての企画であったが、厚生労働省の示したプログラムに沿って実施することができた。感染症に関しては、感染症看護専門看護師や集中ケア認定看護師とプログラム内容について検討し、厚生労働省のプログラムに応じた演習プログラムを作成することができた。	
	管理者向け災害研修は、昨年度に引き続きBCPのテーマで開催した。災害対応能力向上研修は、応募締め切り前に定員枠が一杯になり、災害看護に関する関心の高さが伺えた。都内の看護職の災害対応能力の向上を図るため、座学での研修ではなく机上シミュレーション演習をメインに企画したが、受講者のレディネスの差があり、内容が難しいと感じる受講者も多かった。今後は受講対象や研修内容の見直しが必要である。	

広報委員会

実績	137号 令和5年9月29日発行 45,000部	138号 令和6年3月15日発行 45,000部
成果	会報「看護とうきょう」の制作について検討した。会報誌の印刷冊子はダイジェスト版と位置づけ、公式ウェブサイトでより多くの情報を掲載している。誌面を更に工夫し、ウェブサイトへの誘導を強化した。毎月アクセス解析を行い閲覧数は徐々に増えている。今後も誌面とウェブサイトの連携・周知を強化していく。	

子育て支援委員会

実績	(1) プレファミリー講座	原則奇数月	第4土曜日開催	6回開催	参加者111組
	(2) すくすく広場	第1回6月17日	出席者6組	第2回10月14日	出席者16組
成果	(3) 出前授業	4件	参加者計385名		
	(4) 学習会	テーマ：行動がちよっと気になる子どもと親への対応を考えよう	12月2日	受講者26名	
成果	プレファミリー講座は子育て支援協力員を募集し、子育て支援委員との協力の下にWebライブ運営した。参加者は減少しているが参加者の満足度は99%であった。				
	すくすく広場は、理解度、満足度ともに高い内容であった。				
	学習会は、都内在住・在勤の看護職者を対象に開催し、理解度及び満足度は100%であった。				
	出前授業は、小学校、中学校、高等学校の4校から依頼があり実施した。子育て支援委員と職員で学校に出張し実施した。依頼校の要望を踏まえ実施しているため、満足度の高い授業である。				
	プレファミリー講座については今年度もWEB/LIVE開催とした。新型コロナウイルス感染症は5類感染症となったため、医療機関や行政では集合で開催していることから、当協会事業の参加者は減少している。沐浴名などの演習については体験の要望が多いことから、令和6年度は集合による開催に変更する予定である。				

地域包括ケア委員会

実績	・地区ごとに活動	
	・東京都地域医療構想調整会議	報告書提出
成果	・東京都地域医療構想調整会議	「在宅療養ワーキンググループ」2回参加、報告書提出
成果	地域包括ケアシステムの構築に向けてそれぞれの地区で地域の特性を踏まえた活動を継続しているが、特にその鍵となる病院と地域の看護管理者の連携強化に向けた取り組みが進められている。令和6年度で東京都看護協会としての委員会活動は終了となるが、5年間の活動を通し構築されてきた病院や地域の看護管理者のネットワークを活かし、地域における自主的な活動に移行していくことを推進したい。行政や地域包括支援センターとの連携強化については、保健師職能との情報共有を図るための交流等も検討していきたいと考える。次年度は6年間の活動を報告書としてまとめるとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けてそれぞれの地域の課題を明確化し活動の発展に繋げていきたい。	

看護学生学会ワーキンググループ

実績	第56回看護学生看護学生研究学会	12月1日～令和6年1月31日	オンデマンド配信
	参加校24校	参加者1747名	23演題 内容：口演発表、誌上発表、シンポジウム
成果	発表演題数20件を目標に各学校へ参加依頼を行い、23件の発表につなげることができた。参加校及び参加者数は令和4年度と比較し、若干減少している。参加者は都立看護学校を中心に例年同じ教育機関からの参加が多い傾向がある。看護系教育機関の閉校や学生数減少により参加者数が漸減することも予測され、次年度は、演題発表で新たに参加する学校を増やすとともに、これまで参加がなかった大学生の参加にもつながるよう、各教育施設に周知していく。		

認定看護管理者教育課程・教育運営委員会

実績	ファーストレベル第1回	5月10日～	6月14日	修了者106名
	ファーストレベル第2回	11月	6日～12月	5日 修了者108名
成果	セカンドレベル	8月29日～11月1日	修了者67名	
	サードレベル	6月16日～10月6日	修了者21名	
成果	ファーストレベル、セカンドレベル、サードレベル研修は、質の高い組織的看護サービスを提供することへの社会的ニーズの高まり等により年々応募人数が増加しており、ニーズに応じた受け入れ人数の増員が急務であると言える。			
	ファーストレベルは、定員を超え受講決定したにもかかわらず、応募多数により71名を受講不可とせざるを得ない状況となった。そのため、次年度は年間3回の開催を予定している。			
	セカンドレベルは、定員50名のところ67名応募があり、全員を受講決定した。			
	サードレベルは、教育課程全体の総仕上げ部分であり、認定看護管理者認定審査受験前のフォローを手厚く行うことで、受講者の合格率や満足度も上がっている。			
	受講者の意見からも効果的な教育環境と学びを提供できたと考える。次年度もより良い学びの場を提供できるよう検討する。看護管理者の役割が今まで以上に重要視される中、1人でも多くの看護管理者を育成し排出できるようにすることは、協会として重要な役割であると考ええる。			

看護管理者・看護教育責任者交流会企画委員会

実績	令和6年度診療報酬改定のポイント	ウエビナー開催	令和6年3月28日	受講者281名
成果	診療報酬改定についてオンライン研修を実施し、281名の受講があった。			